

- 都市のサブスクリプション化による高解像度な暮らし方 -

01 PROGRAM

所有から利用へ - 体験の時代を支えていく新たな暮らし方 -

1. 無形のレガシー

かつての東京オリンピックは、高速道路や新幹線、建築にまで有形の遺産を数多く残した。オリンピックのサイクル転で導かれた高度な都市インフラは、街を形作る、生活も豊かにし、さらには街を豊める上では欠かせないものであったことである。

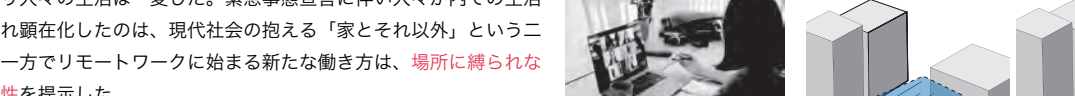
今回の五輪開催にあたり、加速度的に変化する社会の在り方を鑑みると、かつてと同じような形骸のハコモノ建設を推進するのではなく時代に即する新しい街を、未来に残していくことも、人々の生活の質を向上させるための重要なシナリオとなる「都市のレゾナンス」ではあるだろう。



2. コロナ禍に見る未来の建築像 - ハコの解体、暮らしを支えるシステムへの変換 -

コナハ橋により人の生活は一変した。緊急事態宣言に似ているが、この中で生活を余儀なくされ閉居したのは、現代社会の抱える「家社会」という新しい機能である。一方でワーク・ワークに始まる新たな働き方は、**場所にとらわれない生活の形態**を要求した。

この図表は、**デジタル・プラットフォーム**に取り組みつつある現代社会の働き方に示唆をくれる。場所やモノの制約からの解放は現代において、人々により自由に活動できるはずである。今の、社会の入り口は動画機を透過している。モノを所有するのではなく、利用するという考え方が浸透してきたからか、時代の転換点にある。八二〇年頃にはモノを所有し、使った後に返すという、**モノの循環**を重視して、**暮らしの解放**であるという考え方が出てきているのではない。



3. 移動の本質

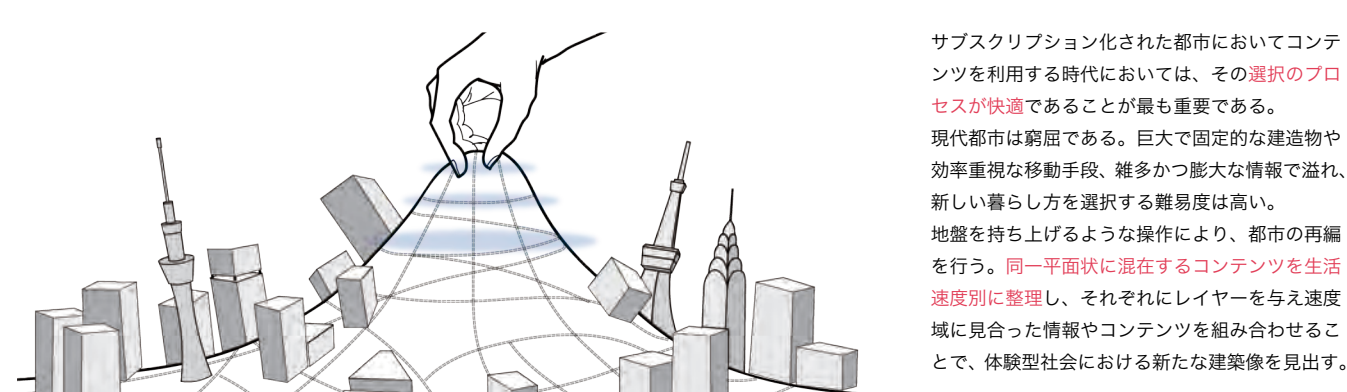
移動はそれぞれの速度で見てくるとものの解像度が違う。例えばお散歩をする
と道端の花に目が付き、電車の車窓には都市が映る。しかし現代人の移動は、毎日
自宅から会社を決まった経路で往くなど固定化し、単に手段として選択されてしま
う経路の中では元来豊かなはずの風景が損なわれている。**移動は目的で足り
るのではなく、付加価値を与えることで、日々の暮らしの解像度をあげる**

4. 体験型社会の到来を支えるサブスクリプションシステム

都市に暮らす人々から見た暮らし方を考えるうえで、サブスクリプション型交通システム Maas の例に示る。移動のサブスクリプション型は生活の自由と柔軟性を広げ、手段であつた交通に新たな価値を生み出す可能性を示した。未来の建物は、その価値を生むにむけて住むことが可能な社会が実現され、人々により豊かに自分自身でライフスタイルを選択することができ、身体的に暮らすという移動の潮流を新たな価値として反映した生活の実現する。建物が「サービス」に暮らすという移動の潮流を新たな価値として反映した生活の実現する。建物が「サービス」に暮らすという移動の潮流を新たな価値として反映した生活の実現する。建物が「サービス」に暮らすという移動の潮流を新たな価値として反映した生活の実現する。

02 CONCEPT

体験型都市への再編 - 混在する要素を生活速度別に整理する -



07 SECTION

未来予想図

第一期 MaaS の実装、情報の最適化

東京オリンピックを契機に、MacSを社会に実装していたもののゲームナルとしての空間は誕生する。移動の選択肢の多様化を受け、**各々に合った速度感**のレイヤーを設計することで新たなシステムは無碍なく受けられていく。

また、速度感を顕在化させることにより現代において潜していた情報は整理され、**生活速度・移動速度に合った情報や広告の提供**が可能となる。迂回していた情報を整理すること、次世代を見据えた情報の需要・供給におけるターゲティングの最適化を行う。

第二期 Legacy として紡がれる暮らし

社会に十分に MasS が浸透する頃にはターミナルは建屋へと姿を変え、最上層のレイヤーの新設により都市空間における人の居場所が定義され、未来においては「**空路で都市に往う**」、生活形態が通達される。MasS による移動が標準となった社会においては特等な移動手段は不要となり、かつて道路であった建屋はインフラを引き込みに基づき個人の生活を支える場所となる。内包される形から脱却し、日々状況に応じて必要な場所を自由に柔軟に選択できるような社会と、解像度の高い働きかたを追求する。

時間や文化を脱した人々の暮らしが日々アップデートされる。コンピュータではシシデとして建築化施設をつくる、環境の文化に貼合う強度を持たねばならぬ人々の暮らしを支える居場所を創出する。

03 SCHEME

MaaS を基盤にサブスクリプション化される都市 -BID 組織を中核とする官民一体型都市整備事業-

1. すべての人の移動の障壁を取り除く

豊かな都市生活を営む上でバリアフリーな移動手段は必要不可欠である。
オリンピック・パラリンピックの開催に際してはTOYOTAの発表^{*1}にあるように、
人々の移動を助ける先進的なモビリティの運用が計画されている。



新たなモビリティの社会への実装にあたって、あらゆる交通手段による移動を一つのサービスとして捉え、シームレスに繋ぐ新たな移動の概念、**MaaS**(Mobility as a Service)に着眼する。オリンピック・パラリンピックの開催により多くの人の移動が想定される機会に、このシステムを社会に広く受け入れられる形で実装するためのターナールを段階的に設計する。

2. 交通×生活のサブスクリプション化

Maas 社会が成熟する頃に、生活に係るサービスが BID 組織によりリリースされ「**市のサブスクリプション化**」という新たな仕組みが社会にインストールされる。人々は個々のニーズに応じて定額で都市に暮らす権利を購入し、居場所を選択してゆく。

within 1km

within 10km

within 100km

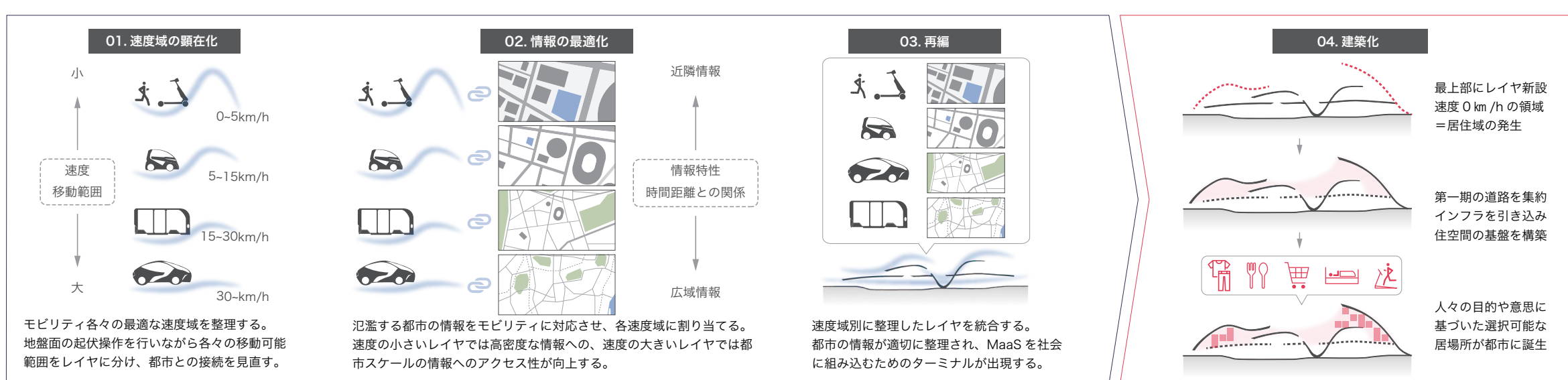
SubscLIFE

¥1,800 / 1 month	¥12,000 / 1 month	¥53,000 / 1 month	¥120,000 / 1 month
micromobility 15km/h	micromobility 15km/h	micromobility 15km/h	micromobility 15km/h
APM 15km/h	APM 15km/h	APM 15km/h	APM 15km/h
taxi 60km/h	taxi 60km/h	taxi 60km/h	taxi 60km/h
train 90km/h	train 90km/h	share car 60km/h	train 90km/h
		train 90km/h	train 90km/h

第一期で新たな交通サービスの在り方を社会に浸透させ、第二期で生活環境の選択肢をリリース

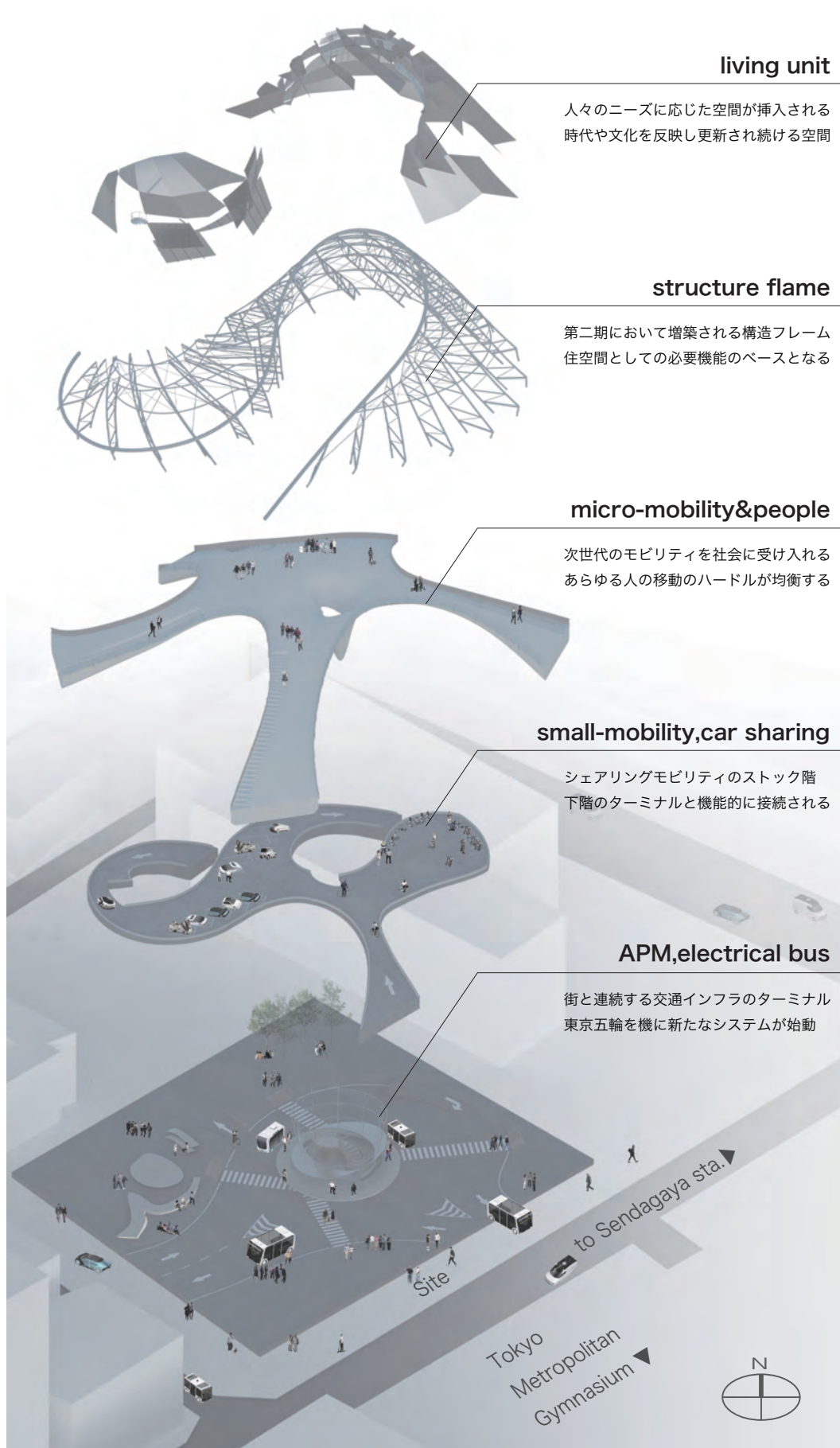
04 DIAGRAM

速度域と情報の整理による建築構成 - 二段階の工期による段階的なシステムの導入 -



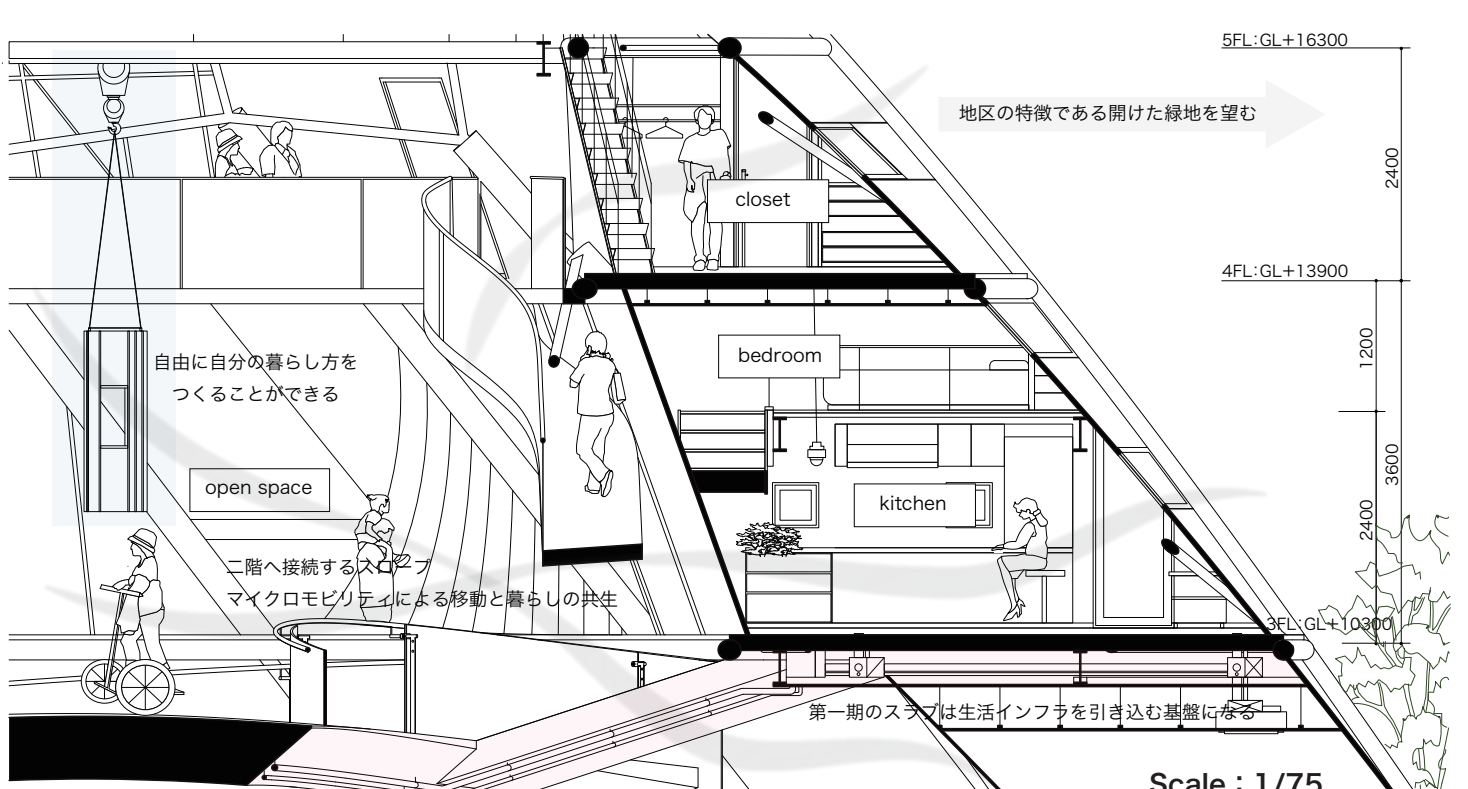
05 ISOMETRIC

速度域レイヤーの積層



06 DETAIL

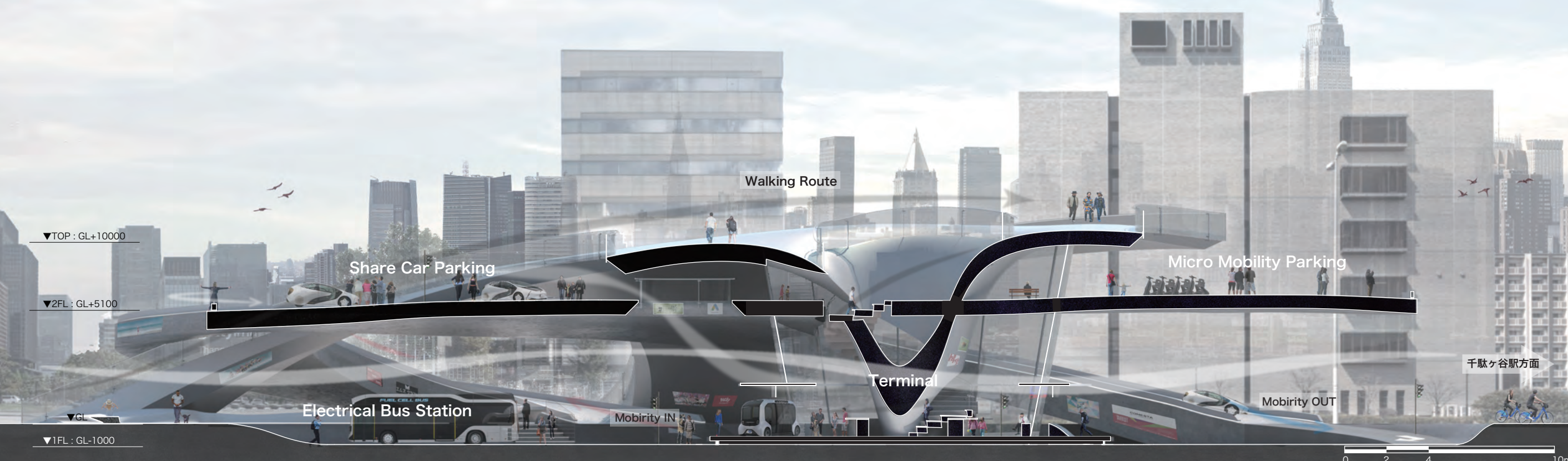
居住区断面詳細 - 人々のニーズに応じて構築されてゆく居場所 -



07 SECTION

未来予想図

第一期 東西断面図



第二期 東西断面区

